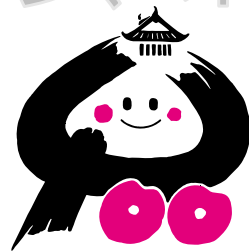




まちづくり元年 歴史資産から始まる夢、未来

今年には津山城の築城開始から数えてちょうど400年。4月1日から400日間、さまざまな記念事業が開催されます。

今月は津山城築城400年記念事業の開幕を前に、津山市出身で日本近世史を研究されている山本博文さん（東京大学教授）を迎えて、中尾市長と記念事業や津山城などについて語っていただきました。



四百年 城に花咲く 夢も咲く

築城400年、
そしてお城山への思い

市長 まさに100年に1回という記念すべき年を、私たちが迎えることができることは、とても幸せで意義の深いことだと思います。築城によって津山のまちはできました。そういった歴史や文化を市民が再認識し、先人の苦労やまちづくりへの思いに、敬意と感謝の念を持たなければなりません。

そして、市民のみなさんと協働でこれからの新しい時代に向けたまちづくりを、歴史に学びながら行っていかなくてはならないと思っています。

21世紀の初頭に、このようなチャンスを迎えることができたことを、とてもうれしく思います。

山本 私が育った家は、門を出て右を見ると、すぐにお城山があります。小さいころからお城山の石垣を見て育ちました。だからお城というのは、どこにもあるものだと思っていましたが、歴史を学び始めているんな城を回っても、津山のように立派な石垣はあまりないですね。

お城山は、私の少年時代の生活に欠かせない風景として心に残っています。